ンクの3種類を用意した。プリント式捺染（なせん）タオルではなく、図柄を織り込む

わた伝統と高品質に裏打ちされた、顧客との信頼関係を地道に築きあげ新規客へも親切に

・48・4805、メール：[illegible]（も）へ。

長谷川工業（長谷川泰正社長・大阪市西区江戸堀2の1の1）は、今秋の新商品として屋根昇降用の2連はしご「ハードルラダー」を発売する。安全性能の強化に工夫を凝らし、特に雪下ろし作業時の事故防止効果向上を図った。

主な特徴として、屋根へ乗り移る最上部に手掛かり棒を設けた。雪の中でもよく目立つ赤色の補助棒を上に伸ばし、掴みながら安全に屋根への昇

はしご上部には安全帯が備わっており、屋根にあてることではしごを横ズレさせず、安全性を高めている。

雪に埋まることが多い最下段のステップ部分は強化ステップとなっており、下部の安全性も保つ。備え付けられた赤ロープは、交換時期が分かりやすいよう、耐用期限が近づくと白色の部分が見えてくるようになっている。

はしご使用時の事故は、47％が雪下ろし作業

同製品は、雪国の除雪事故軽減に取り組むボランティア団体「越後雪かき道場」と共同開発したもので、製品の売上げの一部は同道場に寄付されることになっている。

「ハードルラダー」は、9月14日、15日に大阪市住之江区のインテックス大阪で開催された「関西グランドフェア2018」において同社ブースに展示し、来場者に直に安全性をアピールし好評だった。

リコペル代表　米田氏に聞く

「プレス」導入し稼ぐ農業へ

CO_2を局所施用

農業法人㈱リコペル（山梨県北杜市白州町鳥原57の2）は、㈱テヌート（東京都港区南麻布3の20の1・Daiwa麻布テラス5F）のCO_2局所施用コントローラーシステムである「プレス」を導入して施設栽培を展開し、栽培面積70㌃の土地で、フルーツトマトや四季成りイチゴなどを栽培している。その代表取締役である米田茂之氏（37）に話を聞いた。

広島県広島市出身。九州大学大学院農学部を修了後、野村證券㈱金融経済研究所へ入社。その後、九州大学発の創薬医薬品開発バイオベンチャーや大手企業向け最新システムの法人営業、病院立ち上げの医療コンサル業務などを経験。その後、千葉の最先端トマト栽培研修所にてトマト栽培を学び、2014年に㈱リコペルを設立した。

縁もゆかりもない山梨の地でなぜ農業法人を立ち上げたのか。「就農するにあたり、農地を求めて全国を探したが、全くの素人に農地を貸してくれるところはなかなか見つからなかった。しかし、（公財）北杜市農業振興社は積極的に新規就農の誘致をしており、農地が借りやすかった。そして、北杜市は日照時間が長く、農業に適しており、巨大消費地である首都圏に近い。これらはとても大きなメリットだった」と話す。

当面の目標として、「中山間地でしっかり稼げて、みんながやりたいと思える農業」を前面に掲げ、広大な平野とは違う中山間地域でも、市場単価の高い作物の栽培で収益を上げられるモデルケースの確立を目指す。

就農3年目にテヌートのCO_2局所施用コントロールシステム「プレス」を導入。導入前は10・4tだったトマトの総収穫量が、導入後に13・1tへと増えた。CO_2ボンベの使用本数が年間約18本、約22万円掛かっても余りある、反当たり年間150〜200万円の利益増となった。「栽培技術の向上や様々な要因もあったので、全部が全部このシステムのおかげとは言い切れないが、なり疲れが減って、安定した収量が得られるようになったのは大きい」と米田社長は語った。

同システムの長所を尋ねると、「CO_2供給チューブが細くて邪魔にならない。葉茎が茂っていても難なくチューブの設置ができる。CO_2ボンベは高額だと聞いていたが、このシステムだと無駄なCO_2消費がほとんどない。化石燃料を使わないので、使用による臭いや気温の上昇が発生しない。特にCO_2供給チューブをすっぽりと覆うように群落ができ上がるイチゴ栽培では、CO_2が無駄なく使われるので、このシステムは最適だと思う」と太鼓判を押した。

あえて短所も挙げてもらったところ、「他社との共通性、互換性があれば」との答え。これは、システム自体というよりは、規格の共通化などの、これから対処するべき業界全体の問題と言えるだろう。

同社は、平成29年度の農林水産省による「農業界と経済界の連携による生産性向上モデル農業確立実証事業」における連携プロジェクトに採択された。現在、テヌートと東京農工大と共に、施設園芸において、東京農工大の技術である、花を咲かせながら結実させる連続開花結実法（隔年出荷可能）と、それに対応したテヌートの最新技術として、CO_2とAir局所施用及びLEDを使った補光、各ハウスと制御盤間の数十個の太陽光パネルで発電したセンサやバルブユニットを無線化し、遠隔監視等の技術を組み合わせた環境統合無線化システム「レジェール」の実用化によって、端境期における生産を確立し、収益向上を図ることを目的として、四季成りのブルーベリーとレモン、イチゴ栽培の実証実験を行っている。

今後の具体的な展望としては、観光農園化や、加工品の充実、産直レストランの経営など、農業を土台にした6次産業化を視野に山梨という立地を活かした事業を展開したいとしている。

リコペルのブランドトマト「おもいろトマト」と米田社長。マルチに敷かれた黒いチューブからCO_2が局所施用される

施設内に設置されているCO_2局所施用コントローラシステム「プレス」のコントロールユニット

高性能で好評なニンジン自動重量選別機

ジン自動重量選別機は、1時間当たり1万3800本の処理能力を持ち、

ニンジン連続自動洗浄機をセットすることで、洗いから選別まで自動で一貫した連続作業を行うことができる。

機械底面のコンベヤベルトと光センサーが連動することで選別機へのニンジン供給を自動調整し、安定した高い供給率を誇る。出口幅が広く、通常20㌔コンテナを片側に5個並べて使えるのが特徴となっている。